OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	関西方言における接尾辞「ラ」
Author(s)	上林, 葵
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2017, 15, p. 59-71
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67212
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第 15 号（2017 年 11 月）59-71

関西方言における接尾辞「ラ」

上林　葵

【キーワード】接尾辞、関西方言、複数性、例示、マイナス感情

【要旨】

本稿は、関西方言における接尾辞「ラ」の形態的特徴及び意味・用法を明らかにするものである。「ラ」には主に次の特徴・働きがあるものと考えられる。

a) 体言・準体言に接続し、用言には接続できない。体言の中でも、代名詞における不定称や時を表す一部の名詞のように、名詞そのものの示す範囲が漠然としているものには接続しづらい。

b) 前接の語が複数であることを示す。同じく複数性を示す共通語の「たち」は後接できる語の範囲が有生物までであるのに対し、「ラ」は無生物にも後接できる。

c) 前接の語を複数ある選択肢のうちの一例として提示する。複数の候補から 1 つを例示する「典型的例示」と、候補が前接の語のみと限定的でありながらも同条件の要素の存在をその背後に暗示する「含意的例示」がある。

d) 前接の語に対する話し手のマイナスの感情を示す。提示されるマイナス感情には、当該事物を下にみる「軽卑」と、当該事物を遠ざけたり恐れたりする「敬遠」がある。

1. はじめに

一般に共通語における接尾辞「ら」[1)] には複数性を示す働きがあるとされており、次のように使用される。

（1） ここは僕らに任せて、君は早く帰りなさい。

（2） こんな目にあったのも、あいつらのせいだ。

（3） 警察関係者らによりますと、犯人は未だ逃走中とのことです。

これらの例はいずれも「ら」が付属することによってその前接の語が複数であることを示しており、関西方言における「ラ」にも同様の働きが存在する。一方、関西方言の「ラ」は以下のように、こうした複数性を示す用法とは異なるふるまいを見せることがある。

（4） 今日ラ、どこ行く？

（5） 紅葉のシーズンやし、今京都ラすごい人やろな。

（6） この忙しいときに、のんびり休憩ラしてる場合ちゃうやろ。

上記の例の場合、接尾辞「ラ」は前接の「今日」「京都」「休憩」が複数であることを示しているわけではない。例えば（5）の「京都ラ」は「京都を含む複数の都市」という意味で

1） 本稿で扱う接尾辞「ら」は形式としては共通語と関西方言のいずれにも見られるため、共通語として用いる場合にはひらがな表記で、関西方言として用いる場合にはカタカナ表記で示し分けることとする。

はなく、「京都」のみを話題にする場合にも使用が可能である。本稿では関西地域に使用が見られる接尾辞「ラ」について、こうした複数性を示さないものを含めた意味・用法及びその形態的特徴の記述を試みる。

本稿の構成は次の通りである。まず§2で「ラ」に関するこれまでの先行研究を概観し、続いて§3で「ラ」の生起環境として前接の語との接続関係について検討する。そして§4で「ラ」の意味・用法について「複数性」「例示」「マイナス感情」の3つの観点から記述し、最後に§5で全体のまとめと今後の課題を述べる。

2.　先行研究と問題のありか

接尾辞「ら」を扱った研究としては、標準語にも使用が見られる点で前節冒頭に示したような複数性の用法に着目したものが目立つ。「ら」のほかに「たち」「ども」を挙げそれぞれの変遷を通時的に述べた森（1963）や、新聞や週刊誌から得た実例をもとに「たち」「など」との違いに着目しつつその意味・用法を抽出した石野（1971）、映画シナリオを資料として人称代名詞につく「ら」と「たち」を取り出し、話し手の属性や発話内容の観点からそれらの使用を明らかにした鄭（2001）などが挙げられる。このように接尾辞「ら」に関する研究は、その多くが複数性を示すほかの接尾辞との比較の中で、「ら」の持つ意味的な位置づけを探るものであった。

こうした複数性以外の働きを持つ「ら」に関しては、その例示としての機能を歴史的な文献資料をもとに考察した阪倉（1966）や高知県方言における取り立て・強調を担う副助詞「ラ（一）」に着目した上野（2001、2011）のほか、石野（前掲）で上方語の例として「今日ら」がわずかに取り上げられている程度である。

このように過去の研究から接尾辞「ら」には複数性を中心としていくつかの意味・用法が存在することが示唆されてはきたものの、用例を検討した上での詳細な記述は未だ不十分であるといえる。また地域研究の面でいえば、高知方言として「ラ（一）」を扱った上野（前掲）のほかに言及が見られないことから、関西地域においても使用が見られる接尾辞「ラ」を記述する意義はあると思われる。以上を踏まえ次節では、まず、形態的特徴として「ラ」がどのような語に後接するのか、その生起環境について例を交えつつ検討する。

3.　接尾辞「ラ」の生起環境

本節では、「ラ」がどのような種類の語に接続することができるのか、その生起環境について検討する。分析の枠組みとして、高知方言の「ラ（一）」を扱った上野（2011）の分類を参照した。方言は異なるが「ラ」という接尾辞の特徴の記述を試みていることから、上野（前掲）の分類は関西方言の「ラ」における形態的特徴を明らかにする上でも妥当と判断した。この分類は「ラ」に前接する語の種類を体言・準体言・用言に分け、さらに計12の下位項目を設けた（表1）。

表 1　接尾辞「ラ」に前接する語の種類

体言	代名詞	①指示代名詞 ②人称代名詞
	普通名詞	③時 ④所 ⑤人 ⑥その他 ⑦外来語
	固有名詞	⑧地名 ⑨人名
準体言		⑩準体助詞
用言		⑪動詞 ⑫形容詞

（上野2011:32, 表1）

以下、各節では、関西方言における接尾辞「ラ」の形態的特徴について、概ねこの分類に従って整理していくが、名詞の典型ともいえる「モノ」や「コト」への接続にも焦点を当て、子細に検討することとしたい。まず「ラ」の体言への接続（§3.1）について述べ、続いて準体言への接続（§3.2）、用言への接続（§3.3）の順に検討する。§3.4 はそのまとめである。なお、以降の例文内の下線部は、接尾辞「ラ」に前接する語を示すものとする。

3.1.　体言への接続

本節では「ラ」の体言への接続について述べる。以下、代名詞、普通名詞、固有名詞の順に整理する。

3.1.1.　代名詞

まず代名詞と「ラ」の接続について見ていく。「ラ」は以下のように指示代名詞に接続可能である。

(7)　ちょうどきりがいいから、<u>ここ</u>ラで休憩にしよう。

(8)　ゴミはまとめて袋に入れて、<u>そこ</u>ラに適当に置いといて。

(9)　<u>あそこ</u>ラは治安が悪いから、行かん方がいい。

このような場所や方向を表すもの以外に、人物を表す指示代名詞にも接続する。

(10)　｛現在売り出し中の芸能人たちに対して｝誰やねん、<u>こいつ</u>ラ。

(11)　｛子どもたちを指して｝<u>そいつ</u>ラの面倒は見とくから、その間に早く用事済ませてきて。

(12)　約束の時間やのに、<u>あいつ</u>ラどこ行ったんや。

事物を指すものに「ラ」がつく場合はやや書きことば的となるが、接続は可能である。

(13)　<u>これ</u>ラどこ置いといたらいいの？

(14)　<u>それ</u>ラはこっちに持ってきて。

（15）　｛人だかりを見て｝あれラ、何してるんかな。

ただし、次のような不定称に「ラ」がつく場合は、やや不自然となる。

（16）　?この絵を飾る場所、どこラがいいかな。

（17）　?こんなとこに落書きしたんは、どこのどいつラや。

（18）　?どれラにするか、早く決めて。

不定称はそもそも特定の人物や物事を示さないため、ある事物の周辺を漠然と示すという基本機能を備える「ラ」の性質とはそぐわないことが要因と考えられる。詳しくは§4 で述べる。

「ラ」は以上に挙げた指示代名詞のほか、人称代名詞にも接続できる。

（19）　うちラは公園を探してくる。　【一人称】

（20）　あんたラの荷物、ここに置いとくよ。　【二人称】

（21）　あの子ラ、何やってるんやろう。　【三人称】

3.1.2.　普通名詞

次に普通名詞への接続について確認する。

まず、「ラ」は時を表す名詞に接続できる。特に「今日」については石野（1971）などが「きょうら」を 1 つの語として取りあげていることからもわかるように、「ラ」との結びつきが特に強い語であるといえる。

（22）　会議の打ち合わせしたいんやけど、今日ラ予定空いてる？　【日】

（23）　次いつ集まる？うち来週ラ結構暇やで。　【週】

（24）　次の日曜ラ映画でも行こか。　【曜日】

（25）　今日の 10 時ラ空いてる？　【時刻】

以上のように「ラ」は「今日」などの日のほか、週や曜日、時刻を表す語にも後接する。ただし、次の例にみられるような語には接続できない。

（26）　*ちょっと今ラ手空いてたら手伝ってくれる？

（27）　*さっきラ、どこにおったん？探してたのに。

（28）　*昔ラ、ここでよう遊んだな。

前節でも触れたように、「ラ」は前接語の周辺部を暗示的に示す機能があるため、「今日」や「日曜」など時間の範囲が明瞭な語については、それらの周辺を漠然と示すという意味で「ラ」が後接しやすい。しかし「今」や「さっき」「昔」といった語の時間の幅は話者の主観に依るところが大きく、語自体の示す範囲が漠然としている。このように「ラ」によって漠然と示す必要がないため、これらの語に「ラ」は後接しにくいものと考えられる。

続いて、「ラ」は（29）のように場所を表す名詞にも接続する。また、（30）（31）のように空間や方向を示す名詞にも接続可能である。

（29）　駐車場ラどこもいっぱいやから、その辺の道に停めよう。　【場所】

（30）　その引き出しの中ラ、何入ってるの？　【空間】

（31）　次はその棚の上ラ拭いてくれる？　【方向】

「ラ」はこれまで挙げてきたような時や空間を示す名詞のほか、ヒトやモノ・コトに係

わる名詞にも接続する。

(32) 昨日妹ラ連れて映画館行ってきた。 【ヒト】
(33) 先生ラ、まだ何人か職員室に残ってたよ。 【ヒト】
(34) 今年のお正月は久しぶりに親戚ラで集まった。 【ヒト】
(35) ちょっと荷物ラ見といてくれる？ 【モノ】
(36) 前ここにあったメモ帳ラ、どこやったん？ 【モノ】
(37) 朝からこんな焼肉ラ、よう食べんわ。 【モノ】
(38) {自転車で来た友人たちに向かって} その自転車ラは、下のガレージに置いてきて。 【モノ】
(39) こんなにきれいやのに、なんで掃除ラせなあかんの。 【コト】
(40) 今日は会議ラで立て込んでるから、帰り遅くなるわ。 【コト】
(41) 最近忙しくて、のんきに旅行ラ行ってられへん。 【コト】
(42) あんな嫌がらせラ、気にすることないよ。 【コト】

なお、「ラ」は和語・漢語に限らず、外来語にも接続する。

(43) そんなゲームラしてる暇あったら、宿題しなさい。
(44) 特売らしいから、ついでに隣町のスーパーラ覗いてくる。

3.1.3. 固有名詞

「ラ」は地名や人名といった固有名詞にも接続する。

(45) そろそろ京都ラに着くころかな。 【地名】
(46) 海外旅行行くなら、イギリスラがいいな。 【地名】
(47) 田中くんラ、どこ行ったか知ってる？ 【人名（敬称有）】
(48) 旅行、あと一人くらい誘おうか。太郎ラどうやろ？ 【人名（敬称無）】

人名に関しては（47）のように敬称がある場合や、（48）のように敬称がない場合でも後接可能である。

3.2. 準体言（準体助詞）への接続

本節では「ラ」の準体言（準体助詞）への接続について確認する。「ラ」は次のように、準体言にも接続することができる。

(49) お化け屋敷に比べたら、ジェットコースター乗るんラ大したことないわ。
(50) {新しい趣味を探している相手に対して} 山登るんラどう？

3.3. 用言への接続

最後に用言への接続について確認する。以下に示すように、「ラ」は動詞や形容詞といった用言には接続できない。

(51) *明日大学行くラ、めんどくさいな。 【動詞】
(52) *隣の家、昨日からめっちゃうるさいラ。 【形容詞】

3.4.　「ラ」の生起環境のまとめ

これまで述べてきた接尾辞「ラ」の生起環境をまとめると、以下のようになる。参考までに、上野（2011）による高知方言の「ラ（一）」の生起環境も合わせて示す。

表 2　接尾辞「ラ」の生起環境（高知方言との対比）

			高知方言	関西方言	
体言	代名詞	指示代名詞	○	△	不定称には接続しづらい
		人称代名詞	○	○	
	普通名詞	時	○	△	名詞の示す範囲が漠然としている場合は接続しづらい
		所	○	○	
		人	○	○	
		その他（モノ・コト名詞）	○	○	
		外来語	○	○	
	固有名詞	地名	○	○	
		人名	○	○	
準体言		準体助詞	○	○	
用言		動詞	○	×	
		形容詞	○	×	

高知方言の「ラ（一）」が表中のすべての種類の前接語に接続可能であるのに対し、関西方言の「ラ」は

A）体言・準体言に接続し、用言には接続できない

B）原則として代名詞・普通名詞・固有名詞のいずれの体言にも接続可能だが、代名詞における不定称や時を表す一部の名詞のように、名詞そのものの示す範囲が漠然としているものには接続しづらい場合がある

といった特徴を有していることが明らかとなった。

本節では関西方言における接尾辞「ラ」の前接語との接続関係について品詞ごとに検討してきたが、同じ種類の語に接続する場合でも、例によっては意味・用法が異なる場合がある。次節ではこうした「ラ」の意味・用法について、いくつかの観点を設けて整理していく。

4.　接尾辞「ラ」の意味・用法

結論から述べると、関西方言における接尾辞「ラ」には複数[2)]であることを示す「複数性の提示」の働きのほか、数ある選択肢のうちの一例を取りあげて言及する「例示」、及び「ラ」の前接語に対する話し手の否定的感情を示す「マイナス感情の提示」の働きがあると考えられる。本節では以上 3 つの用法について順に例を示しつつ検討し、関西方言の接

2）この場合の「複数」は英語の“students”のように同じ性質を持つ事物の集合を指す累加の複数（additive plural）というよりも、日本語の「太郎たち」のようにある特定の事物とそれに関連する事物の集合を表す結合の複数（associative plural）が中心となる。

尾辞「ラ」が持つ意味・用法について考察する。

4.1. 複数性の提示

関西方言における接尾辞「ラ」は、§1 の冒頭に挙げた共通語の例と同様、複数性を示す働きを持っている。本節ではこの働きについて、同じく複数であることを示す共通語の接尾辞「たち」との比較を通し、その違いを提示することで関西方言における接尾辞「ラ」の特性を記述する。

まず関西方言のラは共通語の「たち」と同様に、主にヒトに係わる代名詞や固有名詞、普通名詞につき、その前接語が複数であることを示す。

(53) あそこ僕{ラ／たち}の席やのに、誰か知らん人座ってるわ。

(54) あんた{ラ／たち}の荷物、ここに置いとくよ。

(55) あの人{ラ／たち}、あんなとこで何してるんやろ。

(56) 太郎{ラ／たち}どこにおるか知ってる？

(57) 子ども{ラ／たち}の面倒は見とくから、ゆっくり遊んできて。

また、いずれの接尾辞もヒトに係わる語だけでなく、以下のようにほかの生物を指す語にも後接する。

(58) ちょっと近所の猫{ラ／たち}に餌あげてくるわ。

(59) 悪いけど留守の間、うさぎ{ラ／たち}の面倒見といてくれる？

(60) ほら、あんたの好きなワンちゃん{ラ／たち}いっぱいおるよ。

なお、共通語の「たち」についてはその生物が話者にとって身近な存在である場合に使用されやすく、(60) のように擬人化しされた表現につきやすいのもそのためであると思われる。反対に次の（61）のように身近でないものに対しては、「ラ」は可能だが「たち」はやや不自然となる。

(61) 夏場は灯りに羽虫{ラ／?たち}が集まってくるから、網戸した方がいいよ。

「ラ」に関しては有生物に限らず、無生物のモノ名詞にも後接することが可能である。この場合、共通語の「たち」は擬人化等をしない限り不自然となる。

(62) この教科書{ラ／?たち}、捨てていい？もう使わんやろ。

(63) 前ここにあったメモ帳{ラ／?たち}、どこやったん？ 【(30) 再掲】

(64) この靴下{ラ／?たち}、どこにしまったらいい？

(65) なんか事件があったんか、そこの道路にパトカー{ラ／?たち}停まってたよ。

このように、関西方言の「ラ」と共通語の「たち」は前節する語が複数であることを示す働きを持つ点では一致しているが、接続できる語の範囲が異なる。「たち」が後接できる語の範囲は有生物までであるのに対し、「ラ」はそれに加え無生物にも後接可能である。

以上、前接する語の接続可能性を考慮した結果、関西方言の「ラ」は同じく複数を表す共通語の接尾辞「たち」よりも広範囲に使用が可能であることを述べた。

4.2. 例示

続いて本節では「ラ」がある語に後接することで、その語を複数の選択肢のうちの一例

としてフォーカスする「例示」の働きを持つことについて述べる。この場合の「ラ」はただ単に複数を示すのではなく、前接の語の背後や周辺に存在し、その語に代表されるような事態を暗示的に表現しようとする「一種の朧化法的表現（阪倉 1966:315）」であるといえる。本節ではこうした例示の用法のうち、典型的なものを§4.2.1 で取り上げ、複数の選択肢が存在しない場合にも用いられる拡張的な用法を§4.2.2 で述べる。

4.2.1.　典型的例示

関西方言の「ラ」に見られる典型的な例示の用例について、以下に例を挙げる。

（66）　駅前に新しい雑貨屋できたらしいで。今度の日曜ラ覗いてみよか。

（67）　どこで集まる？駅前の喫茶店ラどう？

（68）　今度のグループ発表のことで打ち合わせしたいんやけど、今日ラ空いてる？

（69）　旅行、あとひとりぐらい誘おうか。太郎ラどうやろ？　【（48）再掲】

これらの例文はいずれも話し手の中でいくつかの候補があり、それらの候補のうちの一例として下線部の語が採用され、「ラ」がその例示のマーカーとなっていることを示している。例えば（68）は話し手の都合のつく何日かの候補日のうち、「今日」を例として示した上で、聞き手の都合を探るさまを表している。また、（69）は「あとひとり」の枠に対して候補を複数人思い浮かべた上で、例えば太郎はどうか、と提案する意味合いが含まれている。

次の（66’）（67’）のように「ラ」を除いたものも文としては成り立つが、その場合は下線部の語のみに範囲を限定することになる。

（66’）　駅前に新しい雑貨屋できたらしいで。今度の日曜覗いてみよか。

（67’）　どこで集まる？駅前の喫茶店どう？

（66’）では話し手が「新しい雑貨屋を覗く」という行為を「日曜」のみに限定して提案していることになる。しかし（66）のように「ラ」がついた場合「日曜」は一例に過ぎず、話し手側からすれば「土曜」や「月曜」などの異なる曜日でも構わないという意味合いが増す。同様に（67’）では集合場所が「喫茶店」に限定されているが、（67）では「ラ」が加わることで「喫茶店」は一例として示されるにとどまり、ほかの候補場所の選択可能性も話し手の考慮のうちに含まれることを示している。このように典型的例示の用法を持つ「ラ」は前接語に付加させることで「選択肢のうちの 1 つ」というぼかしの意味を強め、聞き手に選択の幅を与える働きを持っていると解釈できる。

なお、本節で挙げた例文からも見てとれるように、「ラ」が典型的例示として用法をとる際は聞き手に選択の幅を与える「提案」の発話行為を示す文が中心となり、そうでない文に「ラ」を用いることは難しい。

（70）　A：夕食は何がいい？

B1：今日は暑いし、冷やし中華ラどうかな？

B2：??今日は暑いし、冷やし中華ラにしてよ。

上記例の場合、B1 は暑さをしのぐためのメニューの一例として「冷やし中華」を提案し、「ラ」によってそのほかの候補が検討される余地を残している。一方 B2 は「冷やし中華」にすることを命令している時点でそれ以外の候補が選択される可能性を排除することにな

るため、「ラ」の機能する余地がない。このように典型的例示の用法をとる場合の「ラ」は、背後にある選択肢の存在を喚起できるという点で「提案」の発話行為を伴う文に実現しやすいものと考えられる。

4.2.2. 含意的例示

一方「ラ」は、前節に示した選択肢のうちの一例を示す場合のほか、選択肢がその前接語一つしかないという限定された状況においても使用できる。以下がその例である。

(71) {洗濯を外に干そうとする相手に向かって} 今日ラ雨やで。中に干したら？

(72) {ショッピングに誘われて} 今日ラ連休で店混んでそうやし、またにするわ。

(73) {昨日連絡を返してくれなかった相手に対して} 昨日ラずっと何してたん？

(74) {相手が京都に遊びに行くというのを聞いて} 紅葉のシーズンやし、今京都ラすごい人やろな。 【(5) 再掲】

(71) (72) の「ラ」は (68) と同じ前接語を取っているが、(68) が複数の候補のうちの一例として「今日」を挙げているのに対し、(71) (72) は「今日」のみを焦点にしており、ほかの候補日の存在を含んではいない。また (73) のように話し手にとって知りたいのが相手の「昨日」に限った予定であり、ほかの候補日は含まれていないような場合にも、「昨日」に「ラ」を後接させることは可能である。さらに (74) に関しては、話し手は相手が京都に行くという情報を直接聞いて認識していることから、「京都ラ」は「京都」という場所のみに焦点を当てた発話であり、その背景に「京都」以外の具体的な選択肢の存在は感じられない。いずれの例も「ラ」を付加することで、形の上ではほかの選択肢の存在も示しているように見えるものの、話し手にとっての話題の焦点は下線部の語に限定されている。

一方、このように話題の焦点が下線部の語に限られるとするならば、「ラ」が後接する場合としない場合の文の意味はどのように異なるのかという疑問が生じる。

(71a) 今日ラ雨やで。中に干したら？

(71b) 今日雨やで。中に干したら？

これらはいずれも「今日」という日が「雨」であることを示しており、文全体の指す意味内容には違いはないといえる。しかし (71a) は (71b) と比べると「ラ」が付加されることによって「様々に存在する日のうちの、雨の要素を担った代表としての『今日』」という意味合いが生じる。「雨」になるのが「今日」であることに違いはないが、「ラ」の後接によって「『今日』に代表されるような日」というニュアンスが付与されるのである。つまり (71a) にみる「今日ラ」は、典型的例示の「今日ラ」から暗示される「昨日」や「明日」といった具体的な候補までは含まないものの、「『今日』が代表するような条件を担う日」をある種の選択肢として背後に含ませている「含意的例示」といえるだろう。

このように前接語を代表に据え、その背後に関連した要素を含意することの目的として、命題内容に対する話し手の責任の回避が考えられる。(71a) では「ラ」を付加することによって、「今日」のみに焦点を当てるというよりは「今日」が代表を担うより一般的なレベルを扱っているという印象を聞き手に与える。そのため、仮に「雨が降る」という命題が

外れた場合に、「ラ」がついた「今日に代表される日」の方が「今日」のみの場合よりも話し手の責任の所在を曖昧にしやすくなる。「一般的に雨になりやすい日」ということは、例外も起こり得るからである。なお、繰り返しとなるが含意的例示における「ラ」は選択肢が前接語のみである場合に用いられるため、典型的例示と異なり、聞き手に選択の幅を与える「提案」の発話行為の文では現れにくい。

以上をまとめると、含意的例示の「ラ」は典型的例示ほど明確にほかの選択肢を浮かび上がらせることはしないまでも、前接語に代表されるような条件を担う要素を背後に示す効果があるという点で、一種の例示としての用法を担っているものといえる。「ラ」が暗示する選択肢の明瞭さに違いはあるが、典型的・含意的例示は連続体を成すものといえる。

4.3.　マイナス感情の提示

関西地域で使用が見られる接尾辞「ラ」には、その前接語に対する話し手のマイナスの感情が反映される場合がある。なお、この用法を用いる際、先に述べた複数性と例示の用法も同時に表される場合があるが、本節ではそれぞれを特に考慮せず「マイナス感情」の用法のみに着目して検討していくこととする。「ラ」の示すマイナス感情には下位分類として、「軽卑」と「敬遠」の 2 つが該当するものと考えている。それぞれについて、各節で順に述べる。

4.3.1.　軽卑

「ラ」はある語に後接させることで、話し手がその語に対して軽卑の感情を抱いているということを示す働きがある。「ラ」が表す軽卑の感情をめぐっては、共通語の接尾辞「ら」を扱った石野（1971）に言及がある。石野（前掲）はその中で「ら」は同じく複数性を示す「たち」と比べた場合に「上品でないことば」、「無礼なことば」であるといった印象を持たれることが、「ら」の侮べつ感につながる一因であるとしている。このように共通語の「ら」が持つ軽卑の感情は、「たち」と比較した場合における相対的な侮べつ感として取り上げられる場合があるが、関西方言の「ラ」はそうした対比とは無関係に、前節の語を卑下する意味合いとして用いられる。以下に例を示す。

（75）　この忙しいときに、のんびり休憩ラしてる場合ちゃうやろ。　【（6）再掲】

（76）　お化け屋敷に比べたら、ジェットコースター乗るんラたいしたことないわ。　【（49）再掲】

（77）　最近忙しくて、のんきに旅行ラ行ってられへん。　【（41）再掲】

（78）　そんなゲームラしてる暇あったら、宿題しなさい。　【（43）再掲】

（75）の場合、「休憩」という語に「ラ」を付加することで、その語に対する話し手の軽卑の感情を表面化させ、「休憩」が忙しい現在にわざわざするべきではないことを聞き手に知らしめている。また（76）の場合は「ラ」が後接することで「ジェットコースターに乗る」ことが「たいしたこと」ではないことが効果的に示されている。さらに（77）に関しても同様で、「旅行などというものに行っていられない」というように発話者の「旅行」に対する軽卑の感情が現れている。いずれの例も「ラ」がつくことで、つかない場合よりも

前接語に対する蔑み・見下しの感情がより強く効果的に示されている。このように「ラ」はその前接語に対し、話し手が良い感情を抱いておらず卑下しているという軽卑の態度を示すマーカーとして機能していることがわかる。

なお（78）の場合は、「ラ」がつくことで前接の「ゲーム」が複数であることを示しているとも解釈でき、実際にそうした状況でも使用可能である。ただし、例のように軽卑の用法で用いる場合、その前接語は単数であっても適格となる。

4.3.2. 敬遠

続いて本節では関西方言の「ラ」が提示する話し手のマイナス感情のうち、前節の軽卑とはベクトルの異なる感情について述べる。以下に例を示す。

（79） こけて骨折して以来、自転車ラ怖くてよう乗らんわ。

（80） ｛登山初心者であるにもかかわらず富士山に登ると言いだした相手に対して｝さすがにいきなり富士山ラ、厳しいんちゃう？

（81） 新学期始まっていきなり発表ラ、荷が重いわ。

（82） 今まで料理ラまともに作ったことないから、何から始めたらいいかわからん。

（79）の場合、話し手にとって「自転車」は下に見る軽卑の対象というよりは、以前骨折させられた恐怖の対象として映っている。そのため「自転車ラ」には「自転車」を敬遠する話し手の感情が表されているといえる。また、（80）における「富士山」は登山初心者の聞き手にとっては高すぎる目標であり、「富士山ラ」は（79）と同様に前接語を敬遠の対象として捉えた結果が示されているといえる。（81）（82）に関しても、話し手は下線部の前接語に何らかの扱いづらさを感じており、その感情が「ラ」を伴う表現に反映されているものと見てとれる。

以上の例から、話し手は「ラ」の前接語に対して必ずしも軽卑の感情を抱いているわけではないことがわかる。下線部はいずれも話し手にとって実現可能性の低い事物を指していることから、むしろ軽卑とは反対に前接語に対する畏怖や敬遠といった感情が現れているといえる。

このように関西方言における「ラ」には、その前接の語に対する話し手のマイナスの感情を示すという機能がある。そのマイナス感情には、当該事物に対する見下しの感情を示す「軽卑」と、当該事物に対して恐れや扱いづらさの感情を示す「敬遠」というベクトルの異なるものが含まれていることが明らかとなった。感情の性格は異なるが、いずれにおいても話し手が持つある種の価値基準から一定の距離を隔てた存在に対して「ラ」が付与されているという点では共通している。性質の異なる感情が「ラ」という一形式で担われるのには、こうした点が関与しているものと考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上本稿では関西方言における接尾辞「ラ」について、形態的特徴及び意味・用法を記述することを試みた。その結果明らかになったことは以下の通りである。

a) 「ラ」は体言・準体言に接続し、用言には接続できない。体言の中でも、代名詞

における不定称や時を表す一部の名詞のように、名詞そのものの示す範囲が漠然としているものには接続しづらい。

b)　「ラ」は前接の語が複数であることを示す働きを持つ。同じく複数性を示す共通語の「たち」は後接できる語の範囲が有生物までであるのに対し、「ラ」は無生物にも後接できる。

c)　「ラ」は前接の語を複数ある選択肢のうちの一例として提示する例示の働きを持つ。複数の候補から 1 つを例示する「典型的例示」と、候補が前接の語のみと限定的でありながらも同条件の要素の存在をその背後に暗示する「含意的例示」がある。

d)　「ラ」は前接の語に対する話し手のマイナスの感情を示す働きを持つ。提示されるマイナス感情には、当該事物を下にみる「軽卑」と、当該事物を遠ざけたり恐れたりする「敬遠」がある。

今回の記述により、「ラ」の意味・用法を中心として大まかな点は明らかにすることができた。しかし、用法間の関係性や意味拡張の可能性など、詳細な考察までには至れていない。特に「ラ」と「とか」「なんか」などの異なる形式間の意味の違いについて、課題を残している。

(83)　今度の旅行、あと一人ぐらい誘おうか。太郎｛ラ／とか／なんか｝どうかな。
【典型的例示】

(84)　紅葉のシーズンやし、今京都｛ラ／とか／なんか｝すごい人やろな。
【含意的例示】

(85)　最近忙しくて、のんきに旅行｛ラ／とか／なんか｝行ってられへん。
【マイナス感情・軽卑】

(86)　こけて骨折して以来、自転車｛ラ／とか／なんか｝怖くてよう乗らんわ。
【マイナス感情・敬遠】

上記の例のように「ラ」は例示・マイナス感情の提示の両用法を通し、「とか」「なんか」に置き換えても意味の違いがほとんど変わらない。ただし、(85)(86)に挙げたマイナス感情の提示に関しては、「とか」よりも「なんか」の方がより自然に置き換えられる。「とか」と「なんか」の違いも視野に入れつつ、これら共通語の別形式との比較を通して「ラ」の意味・用法を整理していきたい。また、「マイナス感情」に関しては今回提示した 2 つ以外の感情を示す可能性もあり、未だ検討すべき点が多い。

今後は以上の点を含めた「ラ」の意味・用法のさらなる考察を進めていくことを課題としたい。

【参考文献】

石野博史（1971）「接尾語「ら」の意味と用法」『文研月報』21-5, pp.33-45, 日本放送出版協会.

上野智子（2001）「高知県方言ラ（一）の暗示性と明示性」『日本語科学』9, pp.79-100, 国立国語研究所.

————（2011）『四国方言－とりたて・言いよどみ・言いはなち・言いすてて・言いおさめる

ー』リーブル出版.
阪倉篤義（1966）『語構成の研究』角川書店.
鄭惠先（2001）「複数を表す「たち」と「ら」の使用における選択条件ーシナリオの分析結果を中心としてー」『社会言語科学』4-1, pp.58-67, 社会言語科学会.
森昇一（1963）「接尾語タチ・ドモ・ラ」『国語研究』16, 國學院大学.

かんばやし　あおい（大阪大学大学院生）
aoinkamba_1991@yahoo.co.jp